

1	腸内細菌検査
---	--------

1 概要

1] 目的

食中毒発生の未然防止を目的として、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌の保菌者検索を行った。

2] 対象

対象者は、食品取扱者、集団生活者（幼児・施設入所者）、学校給食従事者等

3] 検査方法

(1) PCRスクリーニング検査

検体はキャリーブレイク輸送培地に採取し、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌由来の遺伝子を3菌種同時にスクリーニングする検査法（マルチプレックスPCR法）で検査を行い、疑陽性となった検体に対して培養法を行った。

(2) 赤痢菌検査

- ・分離培養はSS培地を使用した。
- ・確認培養は、TSI培地・LIM培地・シモンズの酢酸塩クエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。

(3) サルモネラ属菌検査

- ・分離培養はSS培地を使用した。
- ・確認培養は、TSI培地・LIM培地・クロモアガーサルモネラ培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。
- ・生化学的性状が一致したものはサルモネラ免疫血清を用い、O抗原の同定検査を実施した。

(4) 腸管出血性大腸菌検査

- ・分離培養はクロモアガー STEC培地を使用した。
- ・確認培養は、TSI培地・LIM培地・CLIG培地・クロモアガー O157培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用した。
- ・生化学的性状が一致したものは、病原大腸菌免疫血清を用いて同定検査を実施した。また、同時にベロ毒素産生能検査を実施した。

2 実施状況

表1 赤痢菌、サルモネラ属菌(チフス菌・パラチフスA菌を含む)検査実施状況

	団体数	受検者数	陽性者数 (%)	赤痢菌	サルモネラ属菌群								腸管出血性大腸菌 陽性者数 (%)
					O1,3,19	O13	O3,10	O4	O7	O8	O9	不明	
食品取扱者	1,310	76,805	45 (0.06)	0	1	1	3	20	14	4	2	0	0 (0.000)
学校給食従事者	380	41,443	22 (0.05)	0	1	1	0	9	4	3	3	1	0 (0.000)
総数	1,690	118,248	67 (0.06)	0	2	2	3	29	18	7	5	1	0 (0.000)

【年次推移】

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
赤痢菌・サルモネラ属菌	受検者数	129,980	131,465	126,572	124,659	118,248
腸管出血性大腸菌	受検者数	129,980	131,465	126,572	124,659	118,248